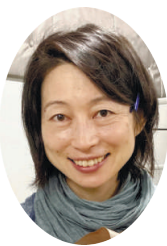


ずいそう

Can I help you? 路線図を見ていたら声をかけられた。Thank you.と問題ない素振りをしたが、本当は問題だらけ。ここはドイツのハンブルク。劇場へ向かう途中なのだが、目的地の駅名が発音できない。なんとか地下鉄に乗る



と、目的地の4駅手前で、突然、電車が折り返し運転に切り替わった。工事中らしい。再び路線図を睨んでみる。Can I help you? また声をかけられた。先ほどの反省を踏まえ、読めない駅名を指さし、ここへ行きたいと英語で言う。親切な方は、英語で代行バスのことを教えてくれた。説明通り駅を出ると、遠くにバスが見えた。再び乗り替えた地下鉄

Can I help you?
五戸真理枝（演出家）

では、車両の真ん中でポテトチップをバリバリ食べている女の子がいて、お母さんがその髪をなでていた。ふと、子どもたちがのびのびしている国だなと思った。フランスを走る高速列車では、歓声を上げる子を、お父さんらしき男性がデッキに連れ出したり、周囲に気を遣っていた。ドイツへの国境を越え列車を乗り換えると、車内にファミリールームがあり、あけっぱなしのドアの向こうに、おもちゃが転がっていた。ドイツでは子どもの声は騒音ではないという考え方が根付いているらしい。子どもの未熟さを受け入れる社会は、言葉のおぼつかない私にも手を差し伸べてくれた。「できない」ことを責めない社会。Can I help you? は、旅人の私を受け入れてくれる声だった。

インタビュー

障がいや他の子どもと異なる特徴を持ちながらも、学校に通い、夢を追う世界の子どもたちを描いた映画『WM ENKOM A DREAM』。パスカル・プリッソン監督の思いを聞きました。

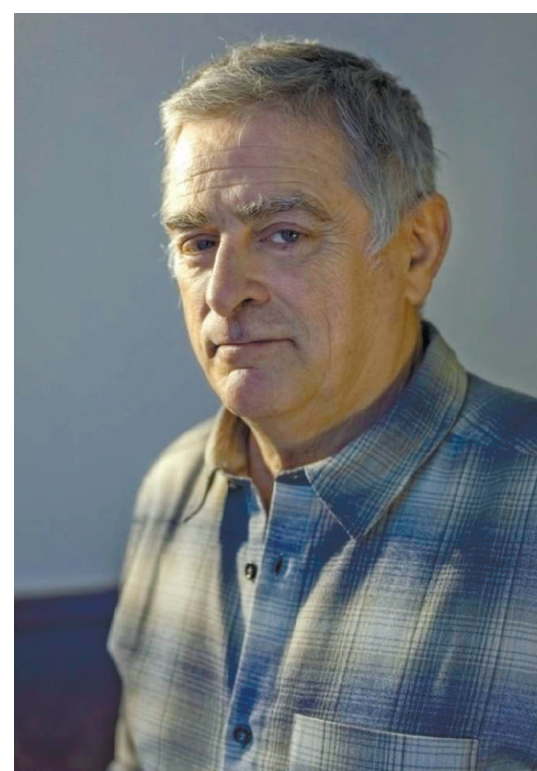
映画には、フランス、ルワンダ、ネパール、ケニア、ブラジルと、世界5カ国6人の子どもの日常が映し出されます。片足で重度の聴覚障がいでも、姉と同じ学校に通い、バレエのレッスンに熱中するフランスのモード。生まれつきの視覚障がいながら長距離ランナーになりたいと、伴走者と走るケニアのチャールズ。大地震で片足を失いながら、義足をつけてダンスの練習にはげむネパールのニルマラとケンド。障がいのあるなしに関わらず社会において、子どもたちは大変脆弱な立場に置かれています。そのときにまわりが手助けすれば、彼らは笑顔のまま自らの可能性を信じ、夢を追うことができる。それは希望です。私はこの映画で、希望を伝えたいのです」

「撮影した私たちも、このような参加型の教育が行われていることに驚きました。ルワンダやケニアのような国では、障がいの受け入れは先進国や西欧社会よりも自然です。それは、その国の社会環境や、教育の成果でしょう」



8月7日（金）よりヒューマントラストシネマ渋谷ほか全国順次ロードショー
©Eady East Prod

違いを認め、共生する



ウィー・ハブ・ア・ドリーム
映画『WE HAVE A DREAM』監督
パスカル・プリッソンさん

ルワンダに住むサビエルはアルビノ（先天性白皮症）です。白い肌をもつサビエルは、迷信により誘拐される危険がある不安がる母親。しかし学校では、サビエルが黒板に書かれた問題を解くと「子どもたち全員が「サビエルは最高!」とほめたえます。得意顔で体を揺らすサビエルに、見ているこちらもうれしく

「障がいや小さな違いで障壁を築くのは、往々にして大人の方です。困難を抱えながらも驚くほどの活力で、あきらめず挑戦する彼らを、ぜひ見てほしい」

B O O K



北海道十勝を舞台にした4家族の物語。3世代続く農家の一人娘の進路問題で心穏やかでない橋本家。隣家では一人娘と結婚した一樹が慣れない農業を家継者や外国人労働者の問題、世代間のあつれきや移住者の思いにも触れ、農家出身の作者ならではの描写はリアルで、心に残る。



失職している夫の「養鶏をしようかな」という一言を機に、著者は卵を産まなくなっていた親鶏を自分の手で捌いて販売したいと考え、資格を得るために「のち」から「食材」に変わる解体現場、養鶏場づくりと経営、子どもたちの成長を見つめる。写真も豊富で臨場感があるノンフィクション&エッセイ。

隣の畑は青々と

河崎秋子

鶏まみれ

繁延あつき



代田知子さん
おすすめの

子どもの本

大人もぜひ!



おやすみ アレクサンダー
ハロルド・リトルデール 作
ひがしから 絵
こみやゆう 訳
(幼児～)

まずは、絵本『おやすみ アレクサンダー』から。夜、寝る前に、クリス坊やは「あのね、パパ」と、自分がしたことを、シマウマのおもちゃ、アレクサンダーのしわざに変えて話し出す。今日、アレクサンダーは朝ご飯を食べなかった。スーパーでジャムのびんを落として割ったよ。悪いよね…。筆者は、本書を子どもたちに読んだのだが、彼らは、下を向いて告白するクリスとパパの場面を真剣に見ていた。悪いことをしちゃったのに上手にあやまらずにいるクリスの気持ちが分かるのだ。さて「おしおきする?」と尋ねるクリスに、パパは何と答えるのか? 親子でぜひ!

『おなやみ見つけます ことば医者』は、身体の病気を診るついでに、子どもの言葉やコミュニケーションの悩み



おなやみ見つけます
ことば医者
高柳克弘 作
kigimura 絵
(小学校中学年～)

を診察する医者と、その診察を受けた4人の小学生の物語。第1話の主人公は、親友に「自分の持ち物を真似しないで」と言えずに悩む少女。「言葉カタマリ病」と診断されて、もらった処方箋に、何と不思議な文字が浮かび上がる…。何気ない言葉で傷ついたり傷つけたり。人付き合いに悩む子どもたちに読んでほしい、ちょっと不思議な物語。

最後は『波の子どもたち』。朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を脱出して新しい人生をつかもうとする3人の若者の物語だ。北朝鮮の想像を絶する「実際」と、自由を求める三人三様の命がけの脱走劇に胸が詰まる。時間をかけて取材した10代の脱北者たちの体験談をもとに、北朝鮮に残る彼らの家族に危険が及ばぬように構成した作品だ。



波の子どもたち
チョン・スヨン 作
斎藤真理子 訳
(中学生～)

岩波書店 1200円＋税

編集部から

日々、私たちの声をないかのように振る舞う政治……にくれているデニーさんと、絶大な信頼の声をたぐさん聞き力を得た。沖縄県知事、3選を! (一)